

第2・3学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年10月15日(金) 5校時
児 童 2年 男5名 女3名 計8名
3年 男1名 女3名 計4名
授業者 教諭 村 上 千賀子

1 単元名 ようすを考えて読もう
(光村 二下)

2 教材名 「お手紙」
(アーノルド=ローベル)

3 単元について

(1) 教材について

本単元は、時間的な順序や場面の移り変わりを考えながら、場面の様子を豊かに思い浮かべることができることをねらいとしている。登場人物の心のふれあいを読み取りながら、共感的に作品を読み味わい、読書への関心を高めていこうとするものである。

「お手紙」は、ちょっぴりわがままで自分勝手なまくんと、一生懸命相手に優しい言葉をかけるかえるくんの対照的な様子を、絵と文を結びつけながら映像化する楽しさを味わうことができる構成となっている。絵本から文字中心の物語文へ移行していく時期にある児童にとって、友達のよさを実感できる素朴で純真な人物像が、ユーモラスにしかもほのぼのと温かく描かれている魅力的な教材である。

素直な心でお話の世界を思う存分想像し、「すぐやるぜ。」「くれなかったんだぜ。」などの言い回しも楽しみながら、読んでいくことができると思われる。

(2) 児童について

児童はこれまでに「ふきのとう」や「スイミー」で、挿絵を活用し、場面の様子を想像しながら自分なりの感想を持って読むことを学習してきた。音読では、場面の様子がよく分かるように声の大きさ、読む速さを工夫し、書く活動では想像を広げるために言葉に着目し、自分なりに感じたことや考えたことを書き込む活動も行った。初めての書き込みだったが、視点を明確にすることや、友達の発表を聞くことでだんだん書けるようになってきた。

これらの学習を通して、あらすじをとらえて正しく読み取るようとする態度や、場面の様子を想像するために言葉に着目しようとする態度は育ってきている。

しかし、少人数ながら、音読でもすぐにすらすら読める子と、練習してもなかなかうまくならない子と、個人差が大きい。また、複式になって半年が過ぎ、間接時の一人学びにもだいが慣れてはきたが、自分の考えに自信が持てなかったり、迷っているうちに時間がなくなってしまうたりする事もあるので、一人学びに入るときの視点の与え方に十分気をつけていきたい。

1 単元名 場面のようにすを想ぞうしながら読もう
(光村 三下)

2 教材名 「ちいちゃんのかげおくり」
(あまん きみこ)

3 単元について

(1) 教材について

本単元は、場面の様子を叙述に即して想像しながら読み、感想を深めることをねらいとしている。読み取りの学習では、場面の移り変わりや情景を想像しながら読み、発展的な学習として戦争のことを書いたほかの物語を読んだり、戦争のことを知っている人に「ちいちゃんのかげおくり」を紹介したりすることで、感想を深めていこうとするものである。

「ちいちゃんのかげおくり」は、一つの家族のきずなの深さを通して、戦争の悲惨さや平和を願う作者の思いが伝わっている。本文は、五つのまとまりから構成されており、特に最後の「それから何十年」かたった町の様子は、現代に生きる我々に平和の大切さと、それを守ることの尊さを示している。

三つの「かげおくり」の情景を思い浮かべたり、主人公に感情移入したりすることで、場面の様子を臨場感や緊迫感を持って感じ取らせていくことができると思われる。

(2) 児童について

児童はこれまでに「きつつきの商売」や「三年とうげ」で、叙述を手がかりにしながら場面の様子を想像して読むことを学習してきた。「きつつきの商売」では、森の様子や音を想像して声に出して読み、「三年とうげ」では、おじいさんの行動や会話文に着目し、文章全体に流れるリズム、テンポのよさを味わったり、おじいさんの気持ちを想像したりしながら、会話文や歌の文の読み方を工夫した。書く活動では、場面の様子や人物の気持ちを読み取るための手がかりとなる文や表現を見つけ、思ったことや考えたことを書き込む活動も行った。

これらの学習を通して、場面の様子を想像するにあたって、文章の中に根拠を求めようという姿勢は育ってきており、書き込みも抵抗なくできるようになってきている。

複式になって半年が過ぎ、学習リーダーを中心として、自分たちで一人学びや音読の聞き合いをすることにもだいが慣れてきたので、自分の考えを発表し合う中で互いの読み取りが深まっていくような話し合いを目指していきたい。

(3) 指導にあたって

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。

そこで、指導にあたっては、挿絵を手がかりとして場面の移り変わりや登場人物の様子や心情の変化とを関わらせながら、読み取らせていきたい。

また、書く活動では、手がかりとなる言葉や文に着目させ、登場人物の様子や気持ちの変化を想像して自分の言葉で書き込むことにより、読みを深めさせていきたい。

まとめの段階で音読発表会を行い、会話が多いこの作品の特徴を生かして、会話文の言い回しを考えさせ、登場人物どうしのやり取りをたっぴり楽しませたい。

4 単元の目標

場面の様子を想像を広げながら読み、人物に同化して読み方を工夫する。

5 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】

- ・場面の様子を想像を広げて読み、進んで声に出しながら、楽しんで読もうとする。

【書くこと】

- ・もらった人に喜ばれるには、どのような事柄を書けばよいのかを考えて、手紙を書く。

【読むこと】

- ・挿絵も参考にして、場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読むとともに、かえるくんとがまくんのほかのお話に興味を持ち、楽しんで読む。
- ・がまくんとかえるくんの気持ちがよくあらわれるように、語や文のまとめ、声の大きさなどに注意して読む。

【言語事項】

- ・漢字を読み、文脈の中で意味をとらえる。
- ・丁寧体に慣れる。

(3) 指導にあたって

第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。

そこで、指導にあたっては、挿絵やちいちゃんの行動、会話文などを手がかりに、場面の様子を想像しながら読むことで、主人公に寄り添い、感想を深めていけるようにしたい。

書く活動では、書き込みをさせる場所をしばり、みんなで同じ部分について考えさせることで、読みを深めさせていきたい。

また、音読では心に残った場面を自分なりに表現することを目標とし、会話文や様子を表す言葉や文の読み方を工夫して、互いに評価させるようにしたい。

本教材は、「戦争」をテーマにした初めての教材なので、戦争体験のない子どもたちにとって、その極限状況を想像することは困難であると思われる。そこで、導入の際、戦争の悲惨さが分かるような資料を提示し、時代背景をとらえるようにしたい。

4 単元の目標

場面の移り変わりや情景を叙述をもとに想像しながら読み、自分の考えをまとめたり、様子がよく分かるように音読したりする。

5 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】

- ・場面の移り変わりや情景を想像しながら読み、進んで人物の気持ちを発表したり、場面の様子がよくわかるように音読したりしようとする。

【書くこと】

- ・「ちいちゃんのかげおくり」を紹介する目的を持ち、書く必要のあることを選択して相手に分かりやすく書きまとめる。

【読むこと】

- ・場面のつながりや情景を叙述に即して豊かに想像しながら読む。
- ・場面の様子や人物の気持ちがよく伝わるように音読する。

【言語事項】

- ・叙述に関わる言葉の意味に気をつける。
- ・文章の敬体と常体の違いに注意しながら書く。

6 指導計画 (14時間)

6 指導計画 (14時間)

指導過程	目標()と学習内容	評価				指導過程	目標()と学習内容	評価				
		関心 意欲	書く こと	読む こと	言語 事項			評価方法	関心 意欲	書く こと	読む こと	言語 事項
つかむ	全文を通読し、学習のめあてをもつ。 お手紙の全文を読んで感想を書く。					ノート	全文を通読し、学習のめあてをもつ。 ちいちゃんのかげおくりの全文を読んで感想を書く。					ノート
	感想をもとに話し合い、学習計画を立てる。					発言	感想をもとに話し合い、学習計画を立てる。					発言
	新出漢字や語句の学習をする。					ノート	新出漢字や語句の学習をする。					ノート
ふかめる	場面の様子を想像しながら読む。 悲しい気分であるがまくんとかえるくんの様子を読み取る。					発言 書き込み ノート 自己評価	場面の様子を想像しながら読む。 四人そろってかげおくりをするちいちゃんの家族の様子を読み取る。					発言 書き込み ノート 自己評価
	かえるくんが手紙を書いたり、かたつむりくんが手紙を頼んだりする様子を読み取る。						空襲の夜、ひとりぼっちで眠るちいちゃんの様子や気持ちをを読み取る。					
	二人の会話をもとに、がまくんとかえるくんの様子や気持ちをを読み取る。(本時)						ひとりぼっちで家族を待つちいちゃんの様子や気持ちをを読み取る。(本時)					
	手紙を出したことを打ち明けるかえるくんとそれを聞いたがまくんの表情やそれに伴う心情の変化を読み取る。						ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちをを読み取る。					
	手紙をもらったときのがまくんの様子や、かえるくん、かたつむりくんの様子を読み取る。						それから何十年か後の、現代の様子を読み取る。					
	がまくんになって、かえるくんに返事を書く。						二つのかげおくりの場面を比べて、様子を読み取る。					
まとめ	紙人形劇をする。 好きな場面を選び、役割分担をして練習する。 2時間					観察 音読 作品	音読発表会をする。 心に残った場面を選んで音読する。					観察 音読 作品
	発表会をする。						発表会をする。					
	発表会のよかったところについて手紙を書く。						戦争や平和について書かれたほかの物語を読む。 戦争のことを書いた物語を読み、読書カードに書く。(2)					
	アーノルド＝ローベルのほかの作品や、他の絵本を読む。						「ちいちゃんのかげおくり」や読んだ本の感想をもとにして、手紙を書く。					

7 本時の指導

(1) 目標

手紙がこないことにいらだっているがまくんと、がまくんを励まそうとするかえるくんの様子を読み取る。ことができる。

(2) 展開

第2学年

7 本時の指導

(1) 目標

ひとりぼっちで家族を待つちいちゃんの様子と気持ちを読み取ることができる。

(2) 展開

第3学年

段階	支援(・)と評価()	学習活動	形態	学習活動	支援(・)と評価()	段階
つかむ	学習課題を把握し、学習の見通しをもつことができたか。(関心・意欲・態度)	1 本時の学習場面と学習課題を確認する。 お手紙をまつ二人のようすのちがいを考えよう。		1 本時の学習場面と学習課題を確認する。 ひとりぼっちで家族をまつちいちゃんの気持ちを考えよう。	学習課題を把握し、学習の見通しをもつことができたか。(関心・意欲・態度)	つかむ
3分						3分
ふかめる	・役割読みでがまくんとかえるくんの様子を考えながら読ませる。 励まそうとするかえる君といらだっていくがまくんの様子を読み取ることができたか。(読む)	2 学習場面を音読する。(P9L1～P12L5) 3 一人学びをする。 ・かえるくんの会話や、かえるくんのしたことの中で、繰り返し出てくる言葉にサイドラインを引く。 4 学び合いをする。 ・線を引いたところを発表する。 ・手紙を待つかえるくとあきらめの気持ちが強いがま君の様子の違いを話し合う。 ・二人の気持ちが表れるように役割読みをする。		2 学習場面を音読する。(P11L7～P13L7) 3 一人学びをする。 ・ちいちゃんの様子がわかるところにサイドラインを引く。 ・線を引いたところを発表し、ちいちゃんの思いが特に強く表れているところを探す。 ・線を引いたところに書き込みをする。	・学習リーダーを中心に進める。 ・ちいちゃんの思いが特に強く表れている言葉には全員が書き込みをするようにする。 ちいちゃんの様子や気持ちを想像しながら書き込むことができたか。(読む)	ふかめる
22分						32分
まとめる	がまくんとかえるくんの気持ちを想像して書くことができたか。(読む)	5 学習のまとめをする。 ・がまくんとかえるくんの気持ちを吹き出しに書きましよう。		4 学び合いをする。 ・書き込んだことを発表し、ちいちゃんの様子や気持ちを考える。	・ちいちゃんがなぜそのような行動をとったのか、理由を考えることで、ちいちゃんの強い思いを感じ取らせる。	まとめる
20分		6 発表する。 7 ふりかえりカードを書く。		5 学習のまとめをする。 ・吹き出しにちいちゃんの気持ちを書く。 6 まとめの音読をする。 7 ふりかえりカードを書く。	家族と会いたいと強く願っているちいちゃんの気持ちを想像して書くことができたか。(読む) ・ちいちゃんの気持ちが聞く人に伝わるように意識して音読するようにする。	まとめる
						10分

(3) 具体の評価規準

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する児童への支援	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する児童への支援
がまくんがいらだつていく様子や、かえるくんががまくんを励まそうとしている様子を想像しながら具体的に書いている。	がまくんがいらだつ様子と、かえるくんががまくんを励まそうとする様子を想像しながら書いている。	二人の会話を音読させたり、がまくんやかえるくんの様子を動作化させたりする。	ちいちゃんの悲しみや心細さを読み取り、家族と会いたいという強い思いを感じ取って具体的に書いている。	ちいちゃんの置かれた状況を読み取り、家族と会いたいと思っているちいちゃんの気持ちを想像して書いている。	家族（特に母親）とはぐれたときの心細さを想像させる。

(4) 板書計画

お手紙

お手紙をまつふたりのようすのちがいを考えよう。

かえるくん

「がまくん。」

まつちよつとまつてみたら

まどからゆつびんうけを

「がまくん。」

ひよつとして

お手紙をくれるかもしれないだろう

まどからのぞきました

「でもね、がまくん。」

きょうは

お手紙をくれるかもしれないよ

まどからのぞきました

がまくん

「いやだよ。」

「あきあきしたよ。」

「そんなこと、あるものかい。」

「いるとは思えないよ。」

「ばからしいこと、言つなよ。」

「きょうだつて・・・。」

ちいちゃんのかげおくり

ひとりぼつちで家族をまつちいちゃんの気持ちも考えよう。

ちいちゃんのように

- ・ なくのをやつところえて
- ・ しゃがんでいる
- ・ 深くうなずきました
- ・ ほししいを少し食べました
- ・ ぼつ空ごつの中でねむりました
- ・ ほししいをまた少しかじりました